



令和4年岩手県産水稻の作柄・品質に影響した要因の解析

【1 令和4年産水稻の作柄・品質】

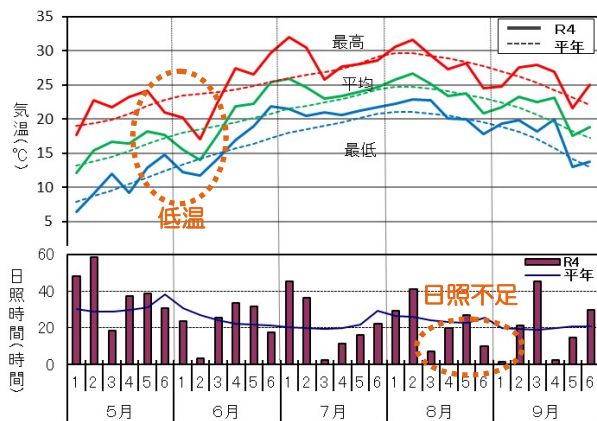


図1 令和4年気象経過図（北上アメダス）

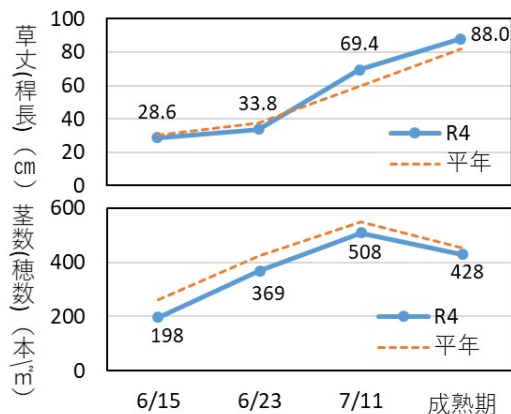


図2 草丈（稈長）、茎数（穂数）の経過

注1）県内調査ほ場（19地点、6品種）の平均値
注2）平年はH29～R3の5か年平均値

(1) 分けつ発生の遅れ、倒伏の拡大

- ・分けつ初期（5月第6半旬から6月第3半旬）の低温と日照不足により、分けつ発生が遅れ、穂揃いがばらつき、穂数は平年を下回りました。
- ・6月下旬以降の中干し時期は、高温で雨が多く、草丈の伸長が促進され、登熟期間中の降雨も加わり倒伏の発生が多かったです。また、茎数確保が遅れ、中干しを適期に実施できなかったほ場では、さらに倒伏が助長されました。

(2) 登熟期の日照不足、収量低下

- ・8月中下旬は日照時間が少なく、登熟が緩慢となり、登熟歩合がやや低下し、成熟期は平年より遅れていました。
- ・分けつ発生の遅れから、穂数や m^2 粒数が減少し、さらに登熟歩合が低下したことから低収となるほ場も見られました。（農林水産省が公表した県全体作況指数は「99」）
- ・未熟粒が多いほ場もありましたが、うるち玄米の1等米比率は県全体で96.7%（令和4年12月末現在）と全国1位です。

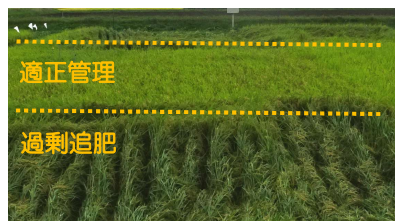


図3 成熟期に倒伏したほ場
(5/25移植ひとめぼれ、中干し無し)

表1 生育ステージと収量及び収量構成要素

年次	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	倒伏程度	穂数 (本/ m^2)	一穂粒数 (粒)	m^2 粒数 (千粒)	精玄米重 (kg/10a)	登熟歩合 (%)	屑米歩合 (%)	千粒重 (g)
R4	8月4日	9月21日	88.0	1.3	428	72.7	29.6	58.0	84.9	6.2	23.2
平年	8月2日	9月17日	81.9	0.7	453	66.1	30.0	58.6	88.1	5.5	22.5
平年差・比	+2日	+4日	+6.1	+0.6	94%	110%	99%	99%	-3.2	+0.7	103%

注1）県内調査ほ場（19地点、6品種）の平均値、平年はH29～R3の5か年平均値

注2）精玄米重、千粒重は1.9mm篩調整玄米

注3）倒伏程度は0（無倒伏）～5（完全倒伏）の6段階評価

【2 次年度以降の対策】

- (1) 気象変動下でも安定した穂数を確保するため、適正な栽植密度と植付本数を確保しましょう。
- (2) 早期の茎数確保によって、適期に中干しを実施し、倒伏を防ぎましょう。
- (3) 適期を逃さず病害虫防除を実施しましょう。